

学位被授与者氏名	梁 銘均 (りょう めいきん)
論文題目	COVID-19 パンデミック下における航空株の株価変動要因の解析に関する研究 —VAR モデルに基づく—
論文審査結果の要旨	<p>本論文の特徴と貢献は以下である。第一に、説明変数として、新規感染者数、月累計感染者数、旅客数、座席利用率、日経平均株価、為替レート、原油価格などを入れて、それぞれの株価への影響をグレンジャー因果検定によって明らかにした点である。その結果、新規感染者数は強く影響しているものの、座席利用数はそれほどでもなかった。その原因は、運航便数の減少によるものと思われるが、そうしたことを示唆する興味深い結果といえよう。</p> <p>第二は、先行研究では不十分であった日本の航空三社の株価変動要因を精緻化した点である。たとえば、先行研究では、旅客と無関係の航空測量に従事する会社など、データとして不適切なものが含まれていたが、本論文は航空三社に限定することで、より頑健な実証を行っている点で、評価できる。</p> <p>なお、為替レートが円安に振れることが、株価を高める要因として説明されているが、その理論的な説明をさらに掘り下げる必要があったといえよう。インバウンドツーリズムの増加と為替評価益の発生には確かに触れているが、なぜ為替評価益が出るのか、といった内実の説明が欲しいところである。また、梁氏も今後の課題として記載しているとおり、航空会社の負債が財務諸表や株価に与える影響について、掘り下げた分析が期待される場所である。</p> <p>とはいえ、本論文は、パンデミックと株価という最新の問題について、緻密な実証を行い有意な結果を得たという意味から、修士論文として評価できるものであり、修士の学位に十分値する。</p> <p>2024年2月22日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館3-324教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して、論文の説明と質疑応答によって学力を確認し、全員一致で当該論文が修士(経済学)の学位に値する内容であると判定した。</p>